

導入

○誰かを「友達」と感じるときは、どんなときですか。

児童の心の動き(事前アンケート結果より)

- ・一緒に〇〇しているとき
- ・助けてもらったとき
- ・協力しているとき

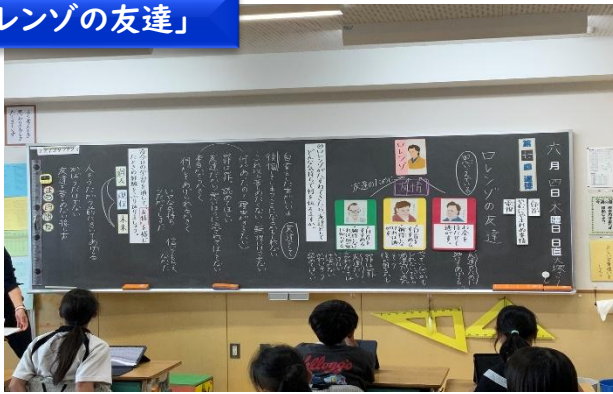
実態

○道徳が好きと回答した児童が8割いるが、苦手である児童は、「人物の気持ちを考えることが苦手だから」と回答している。学校生活においても、友達関係に悩みをもち始め、高学年になり、交友関係を改めて考える時期である。

高学年部会(5年)

主題名:友情を深めるために
(B 友情、信頼)

「ロレンゾの友達」



ねらい★アンドレ、サバイユ、ニコライ三人のそれぞれの「友達」に対する考え方の違いについて話し合うことを通して、友達と互いに信頼し合って友情を深めようとする心情を育てる。

工夫

- ・書く活動の工夫
→ICT を活用することにより、書くことへの抵抗感が下がるようする。
- ・板書の工夫
→場面構成が複雑で、教材理解が難しいため、登場人物の関係を図に近い形で整理する。
- ・発問の工夫
→教材に向き合う、考える時間確保のため、中心発問は一つに絞った。また、ねらいに迫るため、補助発問を二つにし、気持ちを揺さぶり、自己を振り返らせた。

今日の学習を通して、「友情」を感じたときの経験を振り返りましょう。

ロレンゾがたずねて来たら、友達としてどんな気持ちでどんなことを伝えますか。

友達を疑ってしまったことがあった。人を疑う前に話を聞くことで、相手の気持ちに寄り添うことができると思った。

一緒にいたり、遊んだりできるのが友達だと思っていたが、その友達を苦しめない接し方をしていきたい。

これ以上友達を苦しめたくないから、罪を認めてほしい。

本当の話なの？

何かしてあげられることはないだろうか。

協議会を通して学んだこと

事前アンケートの活用...

導入時に活用したものが分かりやすいものであった。自己を見つめる振り返りにおいて、再びアンケートを活用することで改めて友情について考えることにつながることもできる。

中心発問...考える必然性、切実感のある発問であった。一つの発問でも言葉の順序を変えることで、児童の気持ちを引き出しやすくなる。

補助発問...2つの補助発問は振り返り前の気持ちの揺さぶりとして有効であった。また、この補助発問があったからこそ、振り返りで自己を見つめることにつながった。

振り返り...4月から振り返りで行っている「過去・現在・未来」を複数選んで振り返ることは有効である。時期を見て、指導していなくても書けるようになっていくであろう。未来だけとなると、決意表明のようになってしまったため、気を付けたい。

